

### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1 政治への関心、選挙への参加意識

##### (1) 投票と棄権

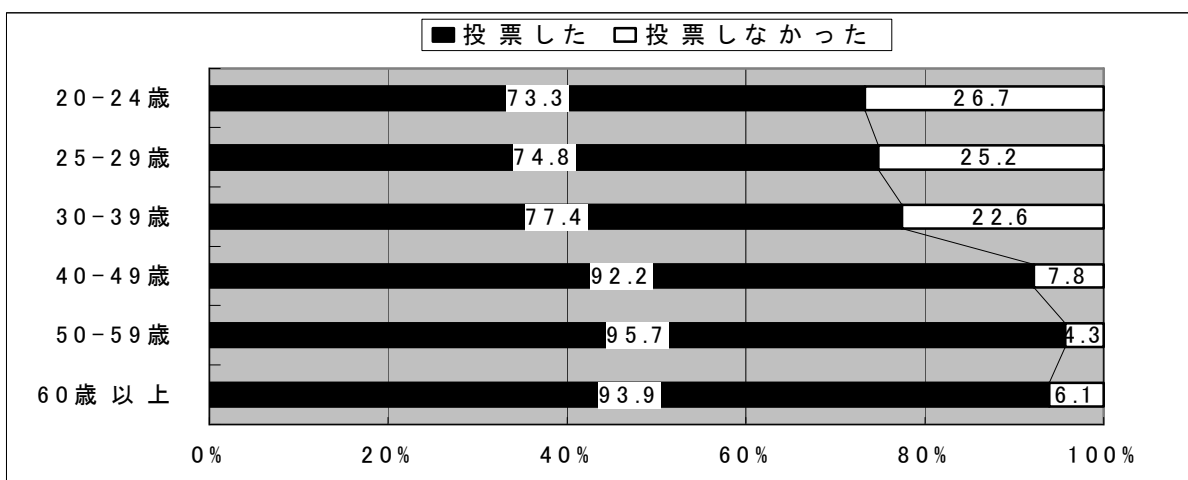
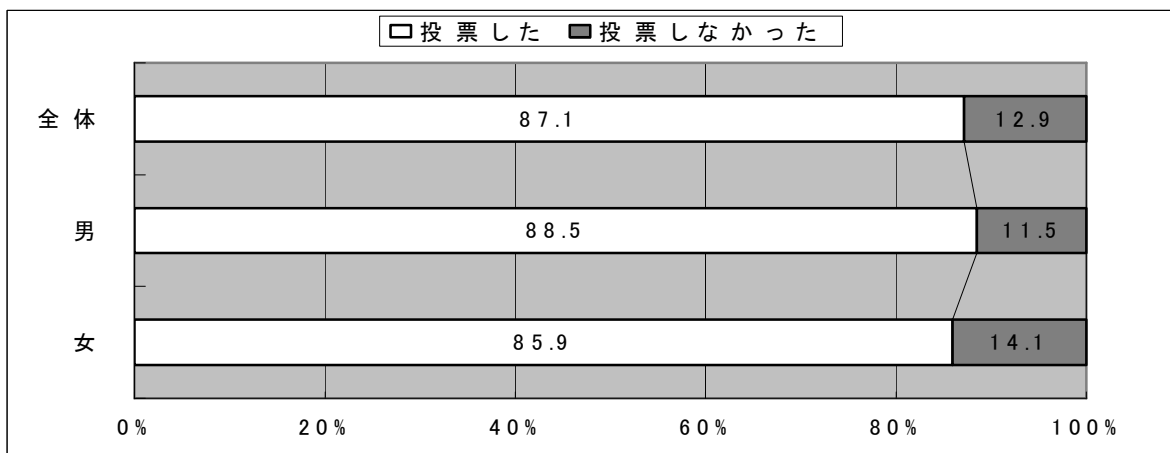
問 1 あなたは、4月13日の知事・県議会議員選挙で投票しましたか。

ア 『投票した』と回答した人が、男性が88.5%、女性が85.9%であり、実際の投票率（知事選68.71%、県議選69.77%）よりもかなり高くなっている。

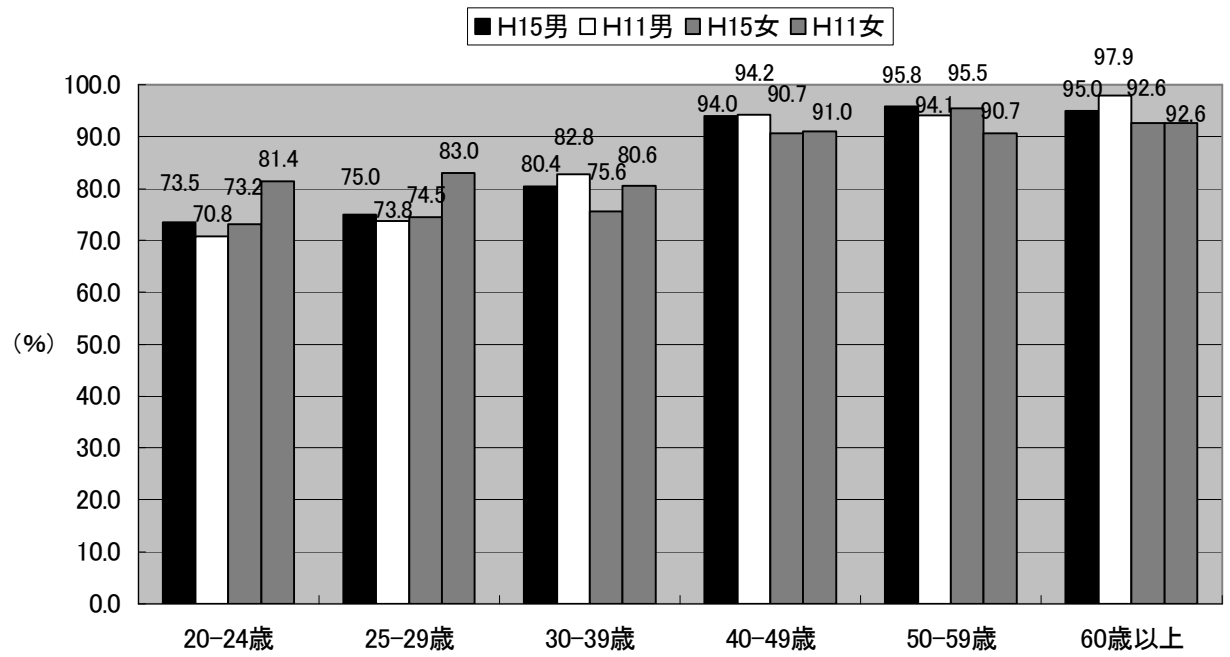
イ 年齢階層別でみると、20代前半が73.3%と最も低く、次いで20代後半が74.8%となっており、年齢階層が高いほど投票率も高くなっている。

さらに男女別でみると、投票率が最も低いのは、20代前半の女性（73.2%）であるが、投票しない理由（問3関連）をみると、『ほかに用事があったから』（25.0%）と『誰を選んでも政治はよくならないから』（25.0%）という回答が最も多くなっている。

ウ 『投票した』という回答を前回平成11年調査と比較してみると、20代から40代の女性と60歳以上の男性が前回より下回っており、特に20代前半の女性では前回は8.2ポイント下回っている。



「投票した」と答えた人



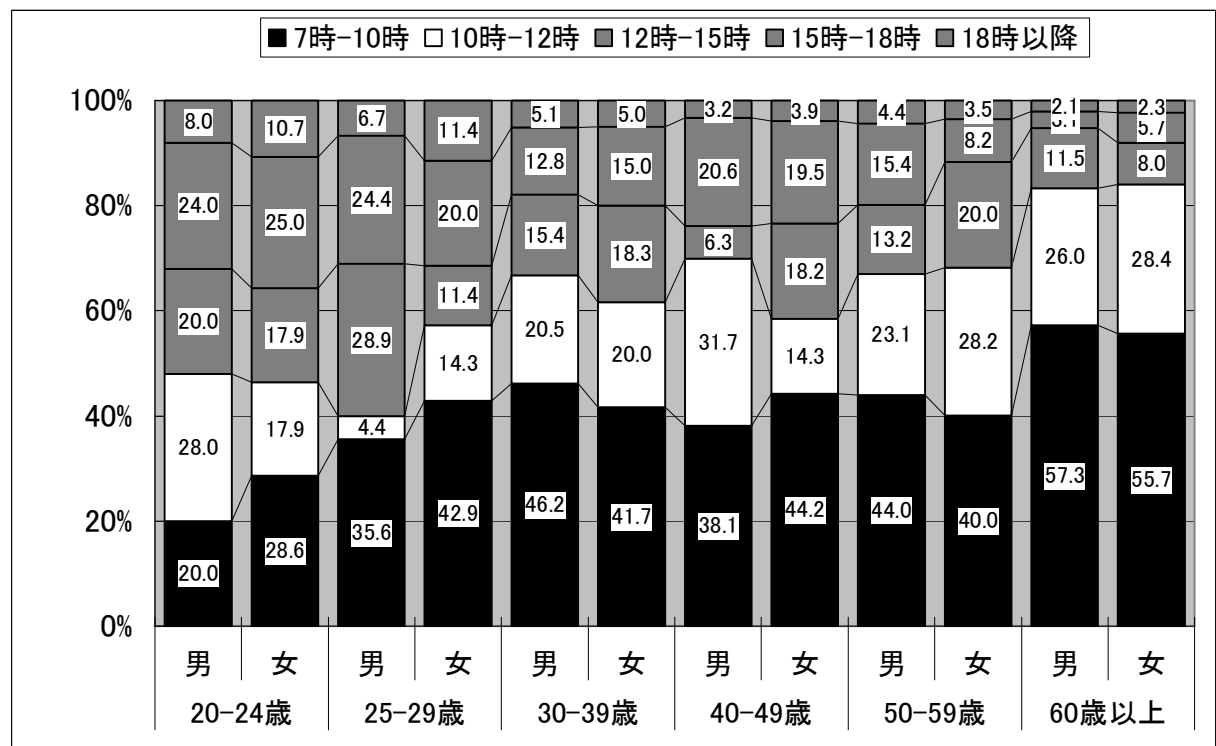
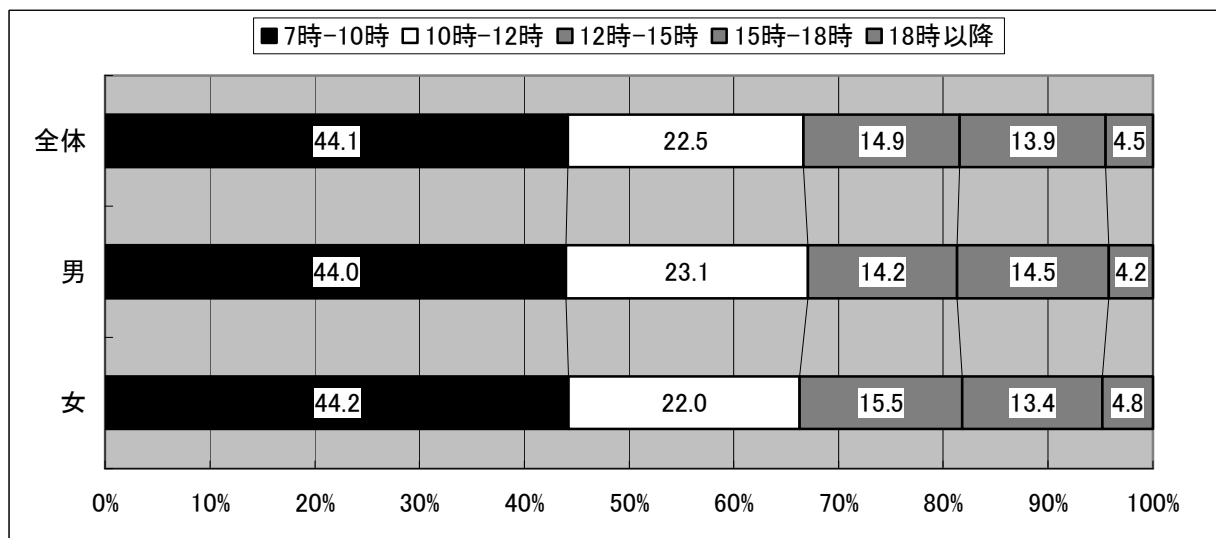
(2) 投票の時間帯

問2 投票したのは何時ごろですか。

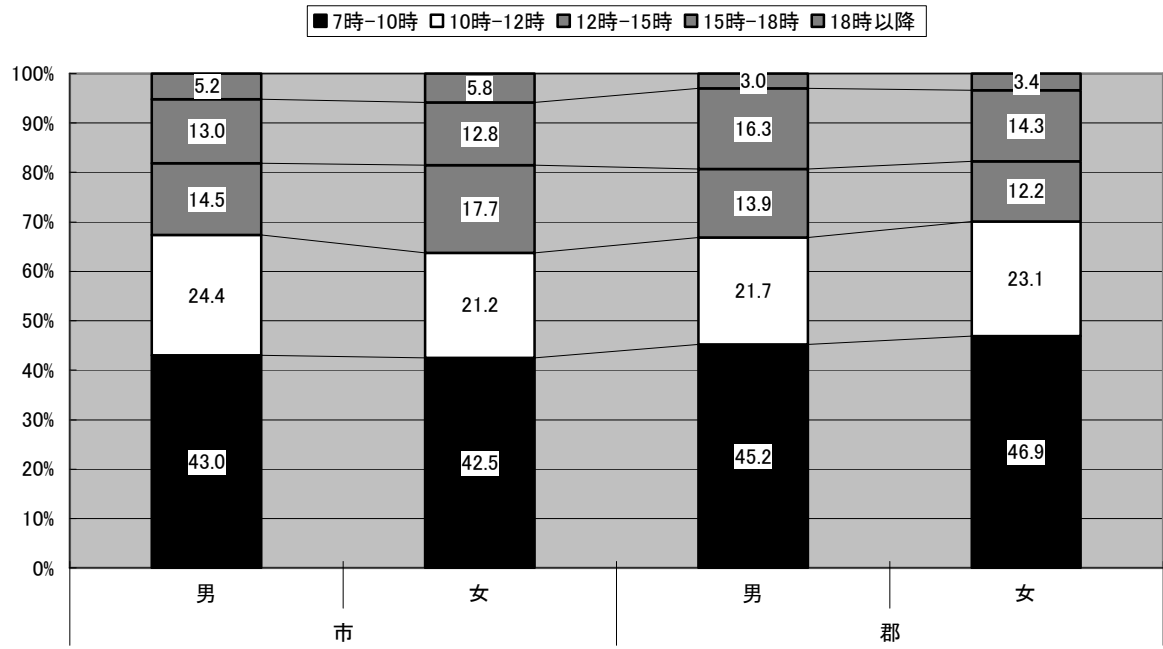
ア 投票の時間帯は、男女とも年代が上がるにしたがい、比較的早い時間帯となっており、60歳代以上では、男女とも50%以上が7時から10時の時間帯となっている。

イ 年代が下がるにしたがって、15時以降の時間帯も多くなっており、20代では18時以降も10%程度と、他の年代より高くなっている。

ウ 地域別では、傾向に大きな差はないが、18時以降の投票者は市部では5%台となっており、郡部より2ポイント程度高くなっている。一方、郡部では、15時から18時の時間帯が市部より高い結果となっている。



投票の時間帯(市・郡別)



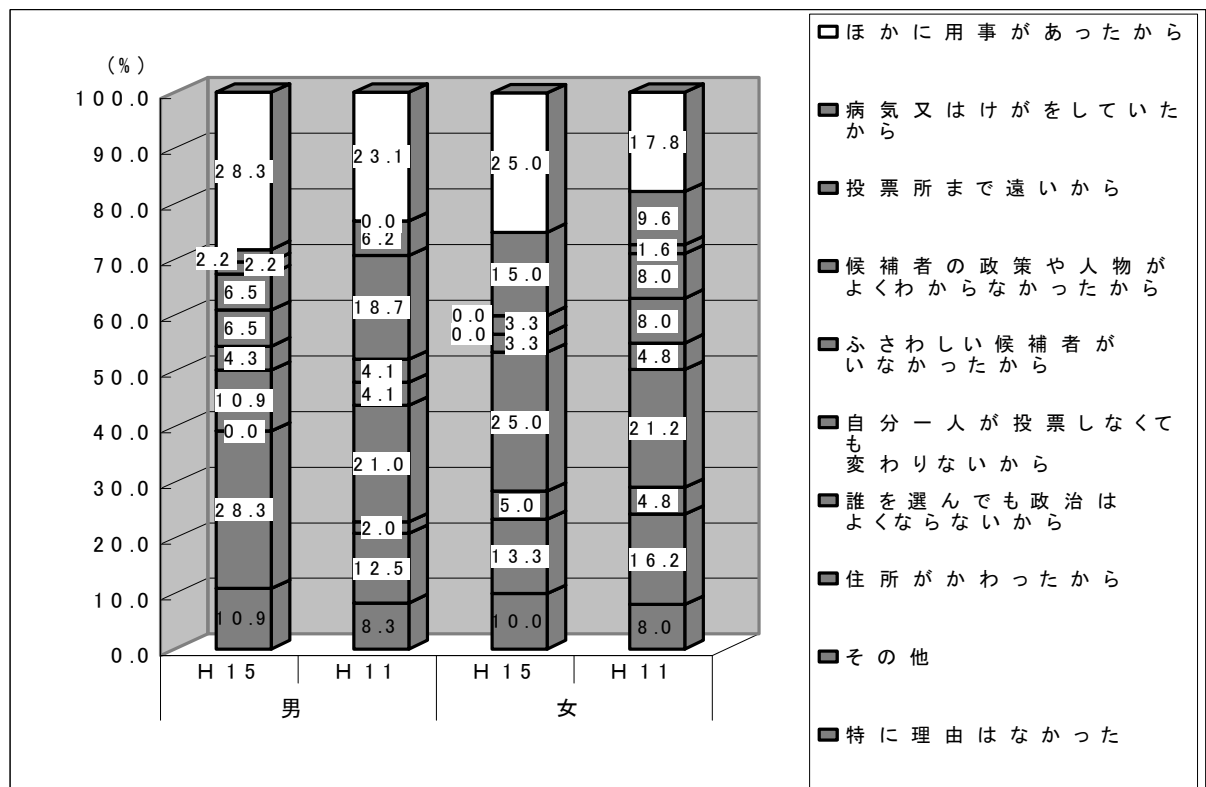
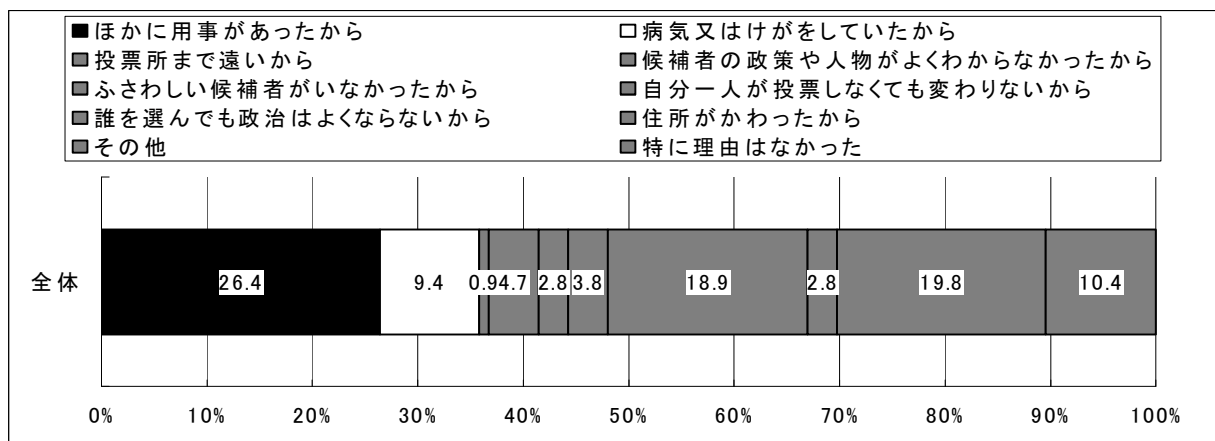
### (3) 棄権の理由

#### 問3 投票しなかった理由は何ですか。

ア 投票しなかった理由は、『ほかに用事があったから』(26.4%)、『誰を選んでも政治はよくならないから』(18.9%)、『特に理由はなかった』(10.4%)の順となっている。

イ 前回平成11年と比べると、『候補者の政策や人物がよくわからなかったから』、という回答の比率が男女とも減少している。また、『誰を選んでも政治はよくならないから』という回答が男性では減少しているが、女性では逆に増加している。

ウ 『候補者の政策や人物がよくわからなかったから』(4.7%)、『ふさわしい候補者がいなかったから』(2.8%)などの理由で7.5%の人が投票しなかったことは、選挙の意義を十分認識していても投票行動に結びつかない面があらわれているものと考えられる。



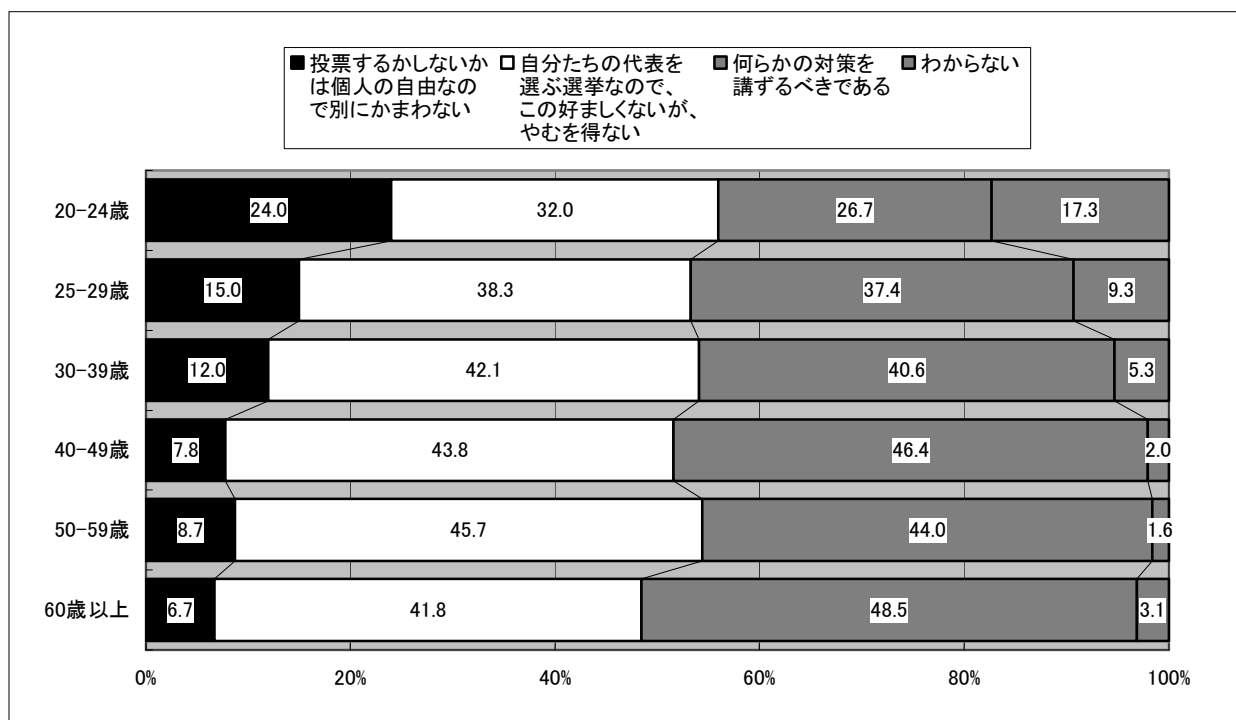
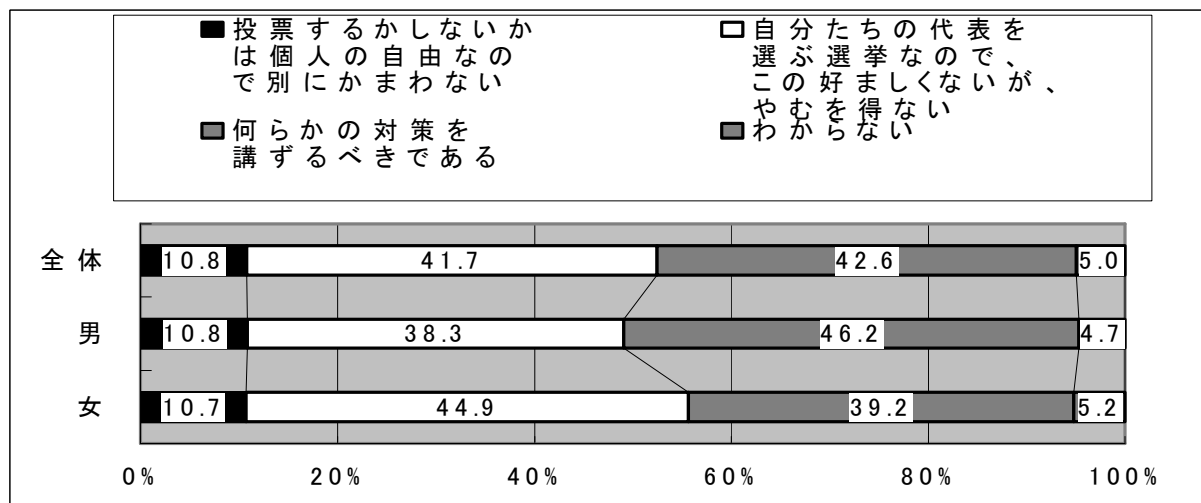
(4) 投票率低下に対する考え方

問4 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、このことについてどう思いますか。

ア 『何らかの対策を講ずべきである』と答えた人が全体で42.6%であるのに対し、『投票するかしないかは個人の自由なので別にかまわない』(10.8%)と『自分達の代表を選ぶ選挙なので、好ましくないが、やむを得ない』(41.7%)と答えた人がほぼ5割を占めている。

イ 男女別でみると、『何らかの対策を講ずべき』と答えた人は、男性が46.2%、女性が39.2%であり、男性の方が女性より7.0ポイント上回っている。

ウ 年齢別でみると、『別にかまわない』と答えた人は20代前半が多く、年代が上がるに従い『何らかの対策を講ずべき』との回答が増えている。



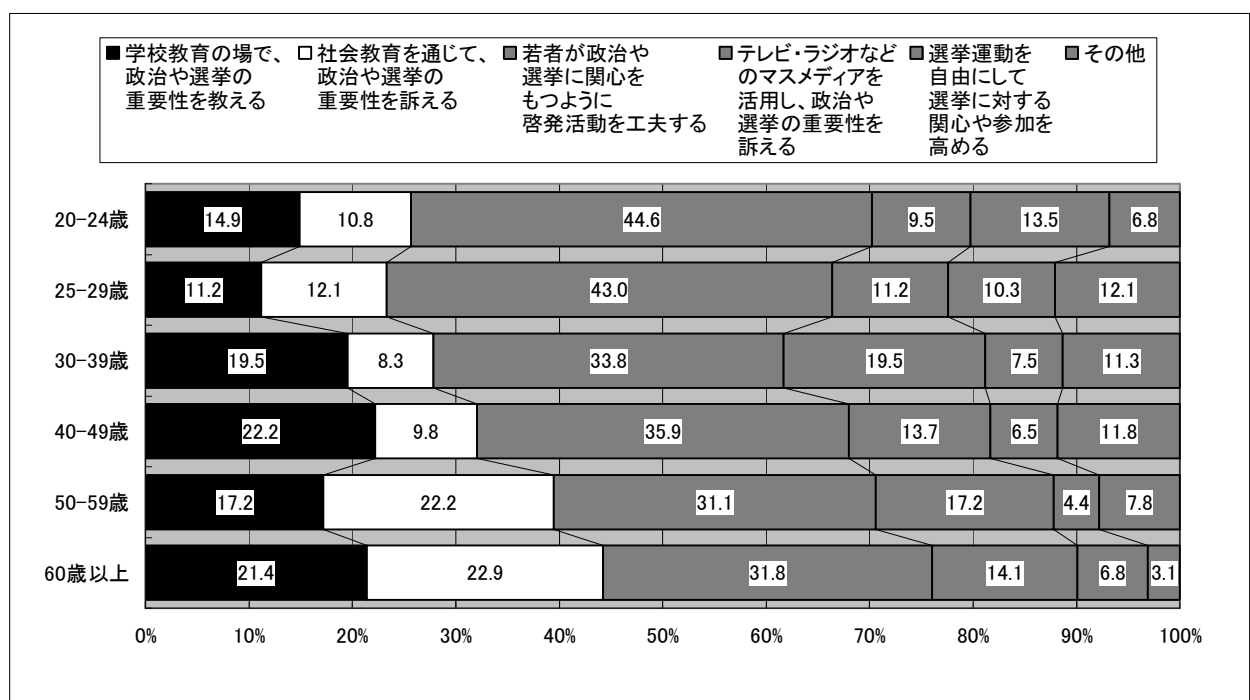
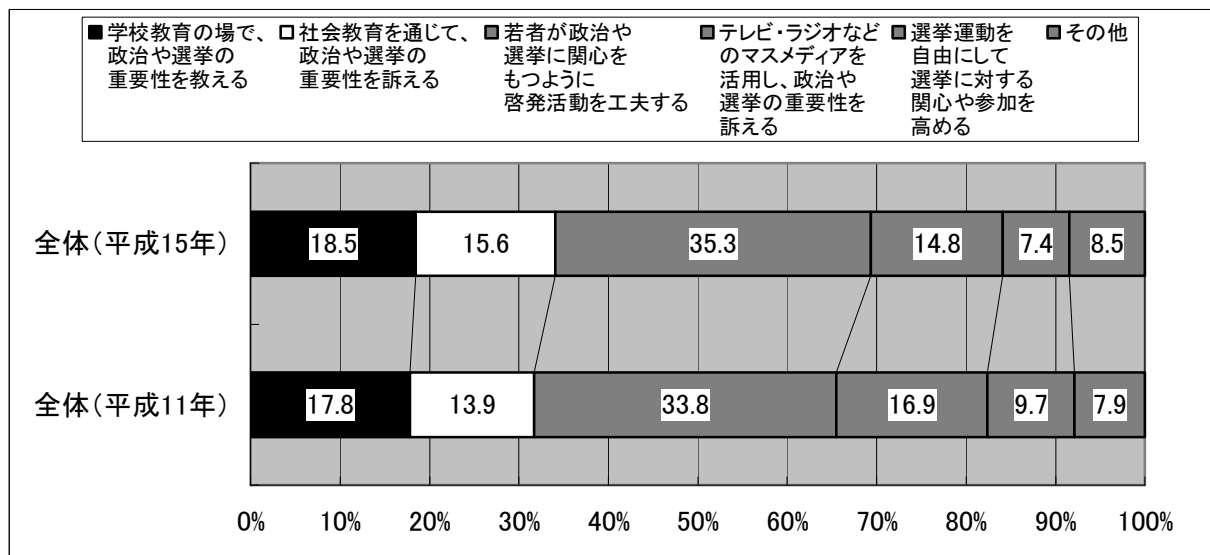
(5) 若者の投票率を向上させるための方策

問5 若い人、特に20代の投票率が低い傾向にあります。若者の投票率を向上させるためには、どうしたらよいとお考えですか。

ア 『若者が政治や選挙に関心をもつように啓発活動を工夫する』と答えた人は、全体で35.3%、  
『学校教育の場で、政治や選挙の重要性を教える』と答えた人が18.5%となっており、啓発活動の創意工夫と学校教育に対する要請が高い。

イ 前回平成11年調査と比較すると、『マスメディアを活用する』が2.1ポイント、『選挙運動を自由にする』が2.3ポイント減少している。

ウ 年齢階層別でみると、20代～30代では『啓発活動を工夫する』と答えた人が多く、年代が上がるにつれて、学校教育や社会教育に対する期待が高くなる傾向が見られる。



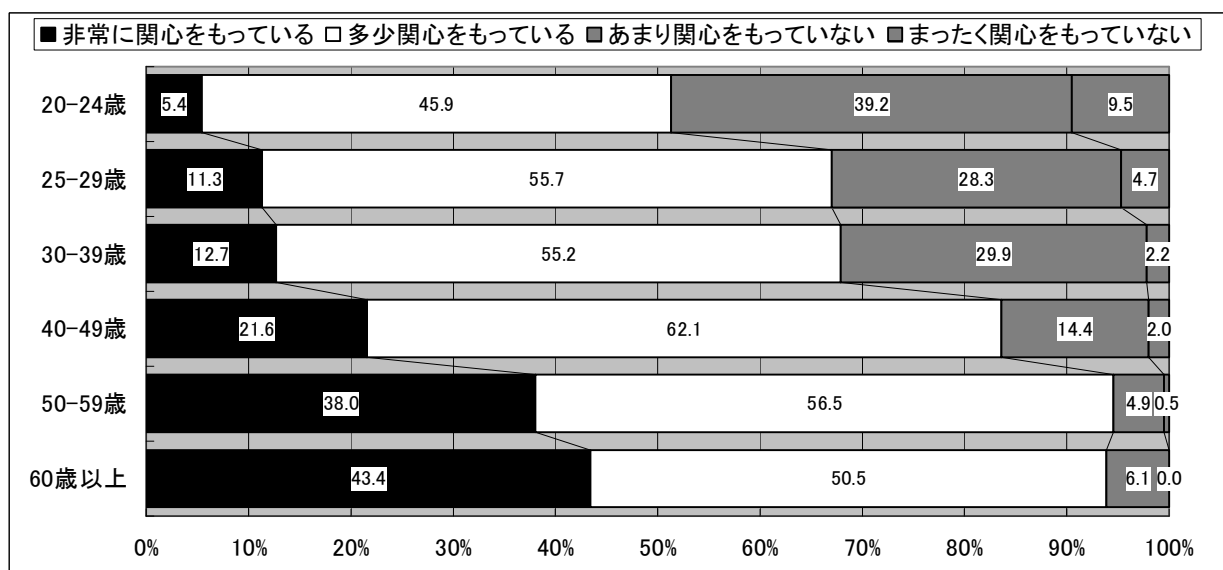
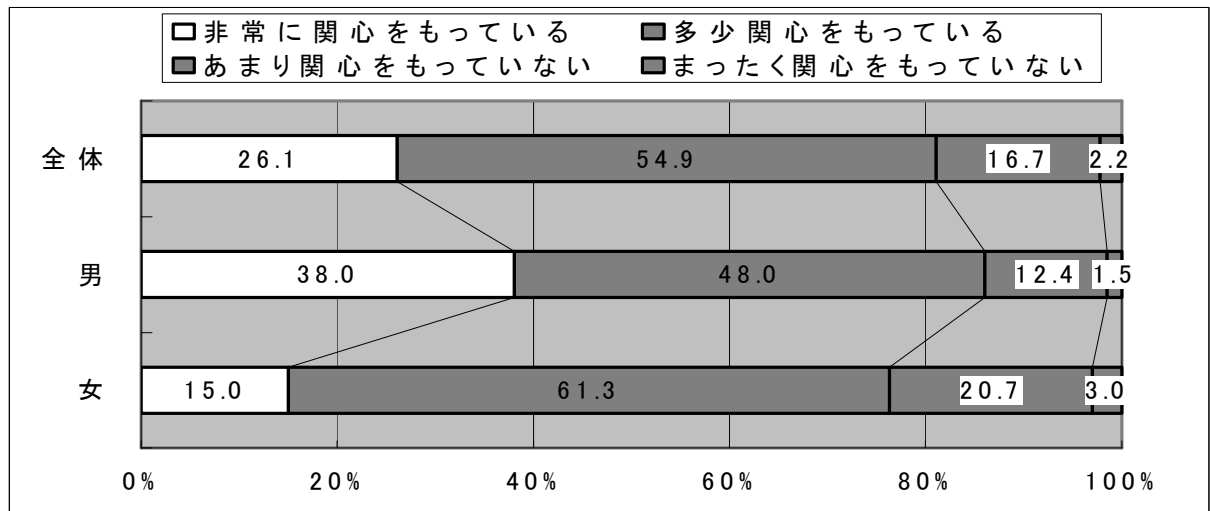
(6) 政治への関心

問6 あなたは、日頃政治について、どの程度関心をおもちですか。

ア 政治に『非常に関心をもっている』(26.1%)と『多少関心をもっている』(54.9%)とを合わせると81.0%になり、そのうちで『多少関心をもっている』が最も多く過半数を占めている。

イ 男女別でみると、『非常に関心をもっている』が男性で38.0%、女性で15.0%となっている一方で『あまり関心をもっていない』と『まったく関心をもっていない』とを合わせると、男性では13.9%、女性では23.7%となっており、相対的に男性の関心度が高いことがうかがわれる。

ウ 年齢階層別でみると、『非常に関心をもっている』と答えた人の割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、一方『まったく関心をもっていない』と答えた人の割合は、年代が下がるほど高くなる傾向がみられる。





(7) 政治に関心をもたない理由

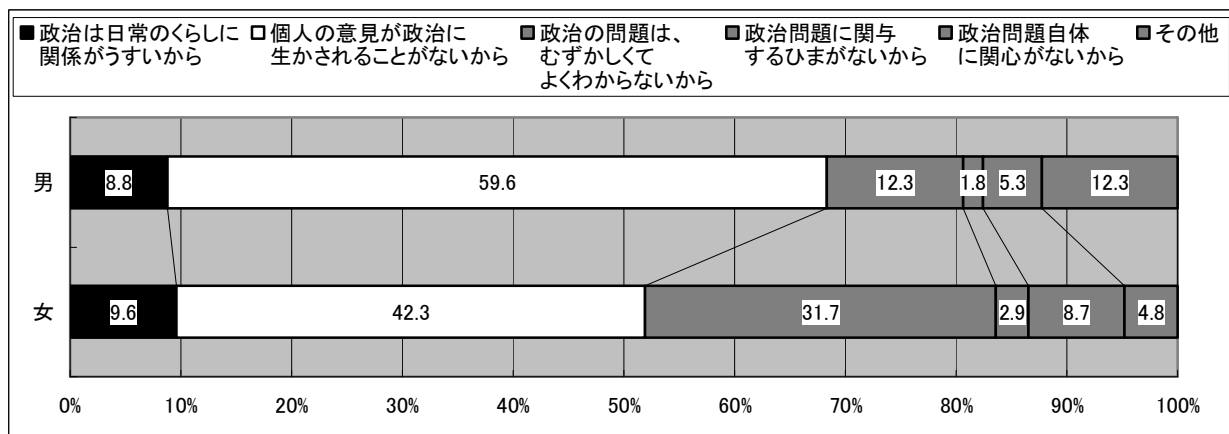
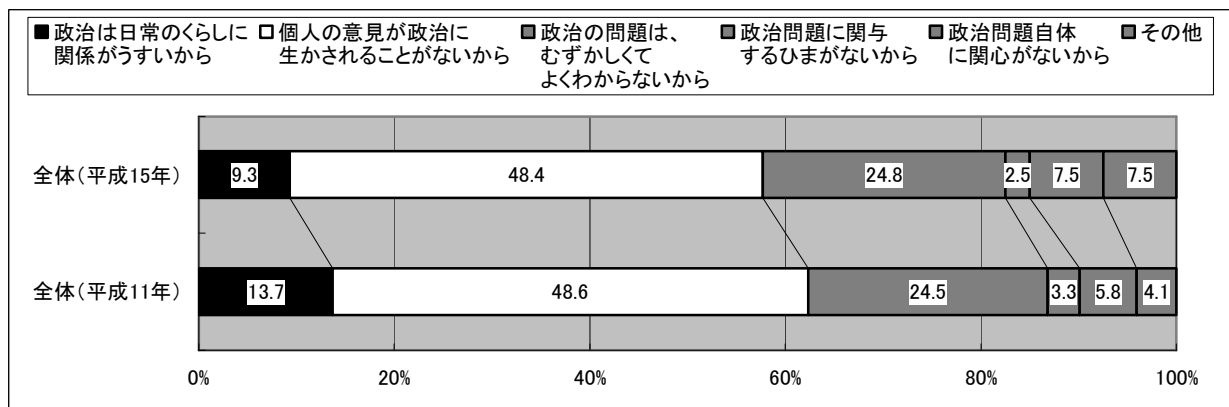
問7 日頃政治に関心をもっていないもっとも大きな理由は何ですか。

ア 政治に関心をもっていない大きな理由として、『個人の意見が政治に生かされることがないから』(48.4%)、『政治の問題はむずかしくてよくわからないから』(24.8%)で7割以上を占めており、男女とも同様の傾向がみられる。

イ 男女別でみると、『個人の意見が政治に生かされることがないから』と答えた人の割合は、男性が女性を17.3ポイント上回っており、一方『政治の問題はむずかしくてよくわからないから』と答えた人は女性に多く、男性を19.4ポイント上回っている。

ウ 年齢階層別でみると、『個人の意見が政治に生かされることがないから』と答えた人の割合は、40代の男性が最も高く80.0%にものぼり、『政治の問題はむずかしくてよくわからないから』と答えた人については、60歳以上の女性が最も高く60.0%となっている。また、『政治は日常の暮らしに関係がうすいから』と答えた人の割合は、女性が男性を0.8ポイント上回っている。

エ 前回平成11年調査と比べると、『日常の暮らしに関係がうすい』と回答した人の割合4.4ポイント減少している。



■ 政治は日常のくらしに 関係がうすいから  
 □ 個人の意見が政治に 生かされることがないから  
 ■ 政治の問題は、 むずかしくて よくわからないから  
 ■ 政治問題に関与 するひまがないから  
 ■ 政治問題自体 に関心がないから  
 ■ その他

